



## 日本型教育について

今月はリフレッシュウィーク等もあり、管理職も含め教職員の皆さんにとつて、少しはゆつたりとした時間を過ごすことができるのではないかと。是非、心身のリフレッシュをして頂きたいものである。

先月、私にある書物が届いた。発送者は、私が小学生だった頃の恩師、前原寿子先生であった。現在おそらく87歳を超えているはずである。15年以上前に同窓会で再会してから、年賀状のやり取りは、ずっと続けていた。お目にかかるときは、小学生時に書いたクワガタに関する作文のことをお話ししてくださる。書いた本人は、薄ら記憶で内容についてはすっかり忘れていたのだが、彼女にとっては印象的な作文だったようだ。さて、話を戻すと、届いた書物の内容は、彼女のこれまでの研究や教育実践等から学んだ教育論的なことがまとめられていた。表現は今と異なる部分もあるが、当時の授業づくりにおいても、今、求められている授業と何ら変わらないものであると感じた。約50年以上経っても色あせない教育実践から、現在の授業づくりでも通用する内容がいくつもあり、私自身も多くの学びを得た。今回は前原先生が出版した「授業研究」の中から、共有したい部分を、先生の言葉を引用しながら述べてみたい。

私はこれまで研修会等で研修者へ1時間完結型の大切さを述べてきた。児童生徒が1単位時間授業に集中することはかなりの労力を要することである。授業終了のチャイムを聞いた瞬間、集中力が途切れる場面を見てきたからこそそう感じる。筆者はこのように述べている。「授業時間は45分と限りがあるのでこの1単位時間をねらいが達成されるように進行することが大事。(略)次へと残していくのは不完全な結果を引きずることになる。授業時間の範囲内で目標達成することをきちんとおさめることができるように努めた」と。(このことは、授業のタイムマネジメントについて述べており、今でも授業づくりにおいて大切な事である。時間を守ることは児童生徒の集中力に影響を与えることと、タイムマネジメントがうまくいかなく、時間が足りない結果になったとき、私もよくやったが、「続きは次の時間に」とか「休み時間だけでももう少し続けるね」とか言ったりする。それは児童生徒にモヤモヤ感が残り、授業の不完全燃焼へと繋がる。

また、先生はこのようなことも述べている。「授業は彼ら(児童)の発見的・問題解決の学習活動が促進される配慮、雰囲気も要求される」とも。これは何を意味しているのだろうか。私は、「配慮」や「雰囲気」の言葉から、児童生徒へ丁寧な寄り添うことで、学級の支持的風土を醸成する重要性を述べていると捉えた。この時代も、良い雰囲気、風土というのは、よりよい集団を形成するうえで重要である。

他にも「自分の能力を育てる方法に子ども達は自ら気付いて行くために努力と協力し合う活動、授業の質を考えねばならない」とも述べている。自ら気付くことの大切さや協力して活動する大切さから、まさに主体的、対話的で深い学びと同じ意味合いで捉えることができる。もう少し深読みすれば、「自ら気付いていくための努力」とは、まさに個別最適な学習であり、「協力し合う活動」とは協働的な学びと同義であると捉えることができるであろう。

これらのことから、昭和の教育は古く、令和の教育が新しいといった二項対立の考え方ではなく、「日本型教育」の良さ、つまり、不易の部分認識し、そのことを根底に持ってICT等の教具を効果的に活用し、「令和の日本型教育」の実現にむけ、取り組むことの大切さを改めて感じた。

今つくづく思う。私も昭和の時代に、前原学級において、支持的風土の中、主体的・対話的な深い学びを経験していたのだと。いろいろな事が急速に進展する中で、我々は新しい事に取り組むこともあるが、表現こそ異なるが、実は新しいことではなく、昔から取り組んでいることも多いのではないかと。

### 令和5年度 第120期教育研究員 検証保育・授業の様子



7月11日(火) 天久みらい  
こども園きりん1くみ  
富盛倫明 教諭



7月14日(金) 与儀小  
3年1組 赤嶺豪一 教諭

### 令和5年度 8月 事業予定

1(火)	中堅研⑦ 社会体験研修(～2日)	各事業所
3(木)	2年目研修②	若狭公民館
4(金)	3年目研修②	若狭公民館
15(火)	中堅研⑨⑩	ほしぞら公民館
16(水)	初任者指導教員等連絡協議会	研究所会議室
17(木)	Google アドバンス研修	研究所会議室
31(木)	初任研⑩	若狭公民館

### 第8回(7/26)・第9回(7/27) 初任者研修会の様子



研修:「レクリエーション」他  
場所:系満青少年の家  
講師:細田奈々氏 他



研修:「対馬丸記念館見学」他  
場所:対馬丸記念館  
講師:高良政勝氏 他

### 第4回情報教育研修会(7/28)の様子



場所:研究所会議室  
内容:①天久小ポータル  
サイト実践事例  
②「Googleサイト」  
アプリの活用方法